

2022 年度中部圏支部 CD3 抗体免疫染色サーベイ 2 次サーベイ結果報告

◎稲垣 裕介¹⁾、川本 洋平²⁾、舩戸 連嗣³⁾、林 直樹⁴⁾、中村 広基⁵⁾、藤田 智洋⁶⁾、吉本 尚子¹⁾、柚木 浩良²⁾
公立西知多総合病院¹⁾、公立陶生病院²⁾、国立大学法人 名古屋大学医学部附属病院³⁾、医療法人 豊田会 刈谷豊田総合病院⁴⁾、
西尾市民病院⁵⁾、小牧市民病院⁶⁾

【はじめに】

免疫組織化学染色（以下、免疫染色）は病理診断において組織型の確定や患者予後の予測、コンパニオン診断など昨今の病理診断において欠かせない。

日本臨床衛生検査技師会 中部圏支部は 6 県で構成され、毎年免疫染色サーベイを実施し、免疫染色における施設間差の減少に取り組んでいる。今回、2022 年度に実施した CD3 抗体免疫染色サーベイで得られた結果に基づき 2 次サーベイについて報告する。

【実施要領】

適切に処理された 3 種類の組織（試料 1：血管免疫芽球形 T 細胞性リンパ腫、試料 2：びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫、試料 3：正常リンパ節）が入った FFPE ブロックをスマートセクション（サクラファインテックジャパン株式会社）を使用して厚さ 2 μm で薄切し未染色標本を作製した。1 次サーベイについては未染色標本 1 枚を各参加施設に配布したのち、免疫染色を実施、染色された標本と染色工程アンケートを回収後、評価・集計を行った。2 次サ

ーベイについては 1 次サーベイ結果に基づき、対象施設に評価表とともに再度未染色標本を送付し、染色標本と染色工程アンケートを回収した。

【染色評価方法】

1 次サーベイについては愛知県免疫染色サーベイクーキンググループの臨床検査技師 8 名と病理医 3 名の 11 名により各施設の染色標本を評価した。評価基準に基づき 4 段階とし、要努力や診断不適正と評価された施設については 2 次サーベイを実施した。得られた結果は 2022 年 2 月にサーベイ結果として報告した。

【結果・考察】

2 次サーベイ対象施設は参加 66 施設中 2 施設であった。当サーベイは 2015 年度にも同様の課題で実施され、2015 年度 2 次サーベイ実施施設は 14 施設であり、このうちの 9 施設が 2022 年度のサーベイにも参加し、いずれも良好以上の評価であった。免疫染色サーベイを実施することで自施設標本の染色態度が適しているかの指標になるため、サーベイは大変有用である。（連絡先 0562-33-5500）